

ごあいさつ

本校のホームページを御覧いただき、ありがとうございます。

沖縄県立沖縄盲学校校長の新垣（あらかき）ゆかりと申します。本校は、令和7年5月1日で創立104年を迎えます。初代校長、宮崎県出身の高橋福治先生が、沖縄県に来県し、1921年（大正10年）に視覚障害者のための教育をおこなったことが本校の始まりです。高橋先生のおもいを受け継ぎ、幼児児童生徒、職員、保護者や多くの支援する方々で歴史を積み重ねてきました。令和7年度は、幼稚部1名、小学部8名、中学部9名、高等部24名（普通科11名・専攻科13名）計42名でのスタートとなりました。前年度に引き続き、歴史ある沖縄盲学校で勤務できる御縁に感謝して職員と共に視覚障害教育の充実に取り組んでいきたいと考えています。

昨年度は、盲学校として校内児童生徒等向け、「本物と出会う」という機会を多くつくりたいという思いで、ピアニストを招聘した特別授業やかりゆし58の前川さんにきていただき、本校でのライブ開催、パリパラリンピックゴールボール日本代表で本校卒業生のパラリンピアン安室早姫さんの講演会やゴールボール体験会などを実施しました。今年度も日頃の授業の充実を図り、幼児児童生徒の教育活動の経験、体験の拡大に向けて多くの方々の力を借りながら教育活動の充実に努めてまいります。

今年度、取組を進めたいこととしては、コロナ禍で滞った地域の小中高等学校等に在籍する児童生徒等の直接支援を復活させていきたいと考えています。盲学校は『視覚障害者が学び方を学ぶ場』として視覚に障害があっても支援機器や道具を使えば、学びやすくなることを提案したり、盲学校しか提供できない情報を教育相談や定期支援等で行ったりしていきたいと考えています。全国的には、盲学校への就学や入学希望者が減っている現状を踏まえつつ、本校では、このような支援に取り組み、視覚障害者が学習上、生活上の困難の克服に主体的に取り組めるよう教育相談等において支援していきます。その上で、国が目指すインクルーシブ教育システムの構築に向けての盲学校としての役割を果たしていきたいと考えています。加えて、疾病等により、途中で視覚障害となった成人の方への専攻科入学に向けての相談支援も行っています。

今年度も、本校の使命を職員全体で共有しながら、幼児児童生徒を輪の中心に据え、全職員で「おもい」を共有して取り組んでまいります。皆様の温かい御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。



本校弱視の生徒が描いてくれた似顔絵です

令和7年4月1日

沖縄県立沖縄盲学校 新垣 ゆかり